

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 16 日

1. 職名・氏名 准教授・林潤

2. 学位 博士、専門分野 理学、授与機関 総合研究大学院大学、授与年月 1999 年 3 月

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 1 年生 総合農学（通年 8 単位）（分担）創農学科教員	
② 内容・ねらい あわらキャンパス内の圃場にて、年間を通じ実際に農作物を栽培し、収穫、加工、消費までを体験する中で、栽培技術、農作業機操作技術、加工・調理技術、簿記技術を身に付けるとともに、農作物と気象、土壌環境、他の生物との関係性を観察、理解し、実験計画法、土壌分析法、雑草・病虫害被害調査法、農作物の収量調査法、統計解析法を学習する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 農機具取扱いを注視するとともに学生とともに自らも耕作を行い指導に当たった。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 創造農学科 1－3 年生、生物資源学科 3 年生 植物生理学 II（旧園芸植物資源学）（2 単位 前期 15 回担当）	
② 内容・ねらい 植物生理学 I の継続としてエネルギー代謝、同化と異化、を担当する。 植物生理学 I で学んだことをふまえ、植物の生理に関してさらに詳細な知見を学ぶ。高等植物のエネルギー・物質代謝についての統一的な知識を学ぶことで、分子レベルでの学習の基礎を築く。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 基本的に学生は予習復習しないので、復習を兼ねて最初の前半 20 分を資料参照可での前回授業内容の小テストを最初に行い、解答説明を兼ねた講義を 20 分している。後半 50 分で次の講義を行っている。 期末テストのみにすると学生が講義内容を全て把握しきれなくなってきたので、中間テストを行いテスト範囲を分割して学びやすくしている。 中間・期末テストは小テストから出題することをアナウンスしているので小テストの解説は比較的まじめに聞いている学生が多い。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 3 年生 育種学実験 II（前期 1 単位）（分担） 分担者：三浦教授	
② 内容・ねらい 大学での実験の心構え、基本的な実験マナー、レポート作成を教育する。 基本的な実験器具の操作を理解させる。 自分たちで出したデータを基にした計算問題を出題して自分の頭で考えさせる。 育種の現場で利用できる DNA シーケンスについて理解し、技術を習得する。	

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実験の原理について、海外研究者の動画を利用するなど、理解しやすいよう工夫した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 1 年生 暮らしを支える生物資源（前期 2 単位）1 回担当 オムニバス 生物資源学部教員
② 内容・ねらい 微生物から動植物までさまざまな生物資源を対象に、最先端技術の研究や福井の活性化を目指した地域貢献研究を幅広く紹介します。また、作物の品種改良、次世代の栽培技術、食品の製造・流通、持続可能な環境保全に関する研究など、生物資源の利用（食・農業・環境・文化・生活）全般に関する研究も取り上げる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 担当「植物での CO2 の取り込みと放出について」
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 1 年生 食農環境・文化概論（通年 4 単位）2 回担当 オムニバス 創農学科教員
② 内容・ねらい 植物生理の観点から農業と環境について知識を深める。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 授業内容に応じて自身の考えをまとめるレポートを提出させ、習熟度を高めた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 1 年生 食農環境実習Ⅰ（通年 2 単位）（分担）創農学科教員
② 内容・ねらい 福井県内全域を学びの場として、実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 授業毎にレポートを提出させ、学期末に面談にて修得程度の把握と理解の促進を行った。学生と外部講師の間の意思疎通が図れるように、用語解説や補助説明を適宜行った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 2 年生 食農環境実習Ⅱ（通年 2 単位）（分担）創農学科教員
② 内容・ねらい 食農環境実習Ⅰでの体験を通して思い描いた学生自身の将来像にもとづき、実現に向けての学習・グループディスカッションを行う。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 適宜レポートを提出させ、特任講師とのディスカッションの時間を設けることで理解を進めるとともに、自己実現のためのグループディスカッションを実施した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 1 年生 食農環境演習Ⅰ（通年 4 単位）（分担）創農学科教員
②内容・ねらい 食農環境実習Ⅰで体験したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 演習毎にレポートを提出させ、記憶の定着と理解の促進を図った。 学期末には 1 年の振り返りをさせ、さらに面談による指導を行うことで、修得程度の把握と理解の促進を行った。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 2 年生 食農環境演習Ⅱ（通年 4 単位）（分担）創農学科教員
②内容・ねらい 食農環境実習Ⅱで実践したことについて学生各自で日誌にまとめ、その都度、教員に提出する。また体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 演習毎にレポートを提出させるとともに、学期末ごとに面談による指導を行い、修得程度の把握と理解の促進を行った。さらに分属に向けての個別相談を実施した。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 4 年生 専攻演習（通年 2 単位）
②内容・ねらい 国内外の英文論文を熟読理解させて専門分野における研究の方向性、最新の知識を学ばせる。学術論文の読み方、データの捕らえ方を学ばせる。科学的な考え方を学ばせる。プレゼンテーションと質疑により知識として得たものをいかにして平易に発表するか、といった表現技法を学ばせる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学生には学術論文のレジュメとパワーポイントを用意させる。 論文の図表の解釈がどのように書いてあるかを曖昧にせず説明させる。 理解していない場合は次の授業にやり直して 1 つの論文をきちんと理解させる。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 4 年生 卒業論文（通年 8 単位）
②内容・ねらい 植物分子細胞生物学分野の研究を行い、その基礎的な知識実験を通して他人から教えてもらい、自分が実行するときはどういったことが必要になるかを実地に教授する。 これは、学生が就職後、初めに直面する非常に大事なことなので、重要視している。何度も行い聞かせやってみせて根気強く指導する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
日頃から、学生とデータのやり取りを常に行いディスカッションする。
実験方法の細かな注意点や実験機器類の操作上の注意点などをすぐに話し合えるようにしている。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表 年ベース 2024R6 年 1 月-12 月	
①著書	【0 本】
②学術論文（査読あり）	【0 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④学会発表等 *1. T- DNA 挿入メタカスパーゼ変異体の葉の暗所誘導老化 日本植物学会 第 89 回大会（2025 年 9 月）福岡 石神良太郎、小林咲姫、 <u>林潤</u>	【 1 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

公開講座「植物でのCO₂の取り込みと放出について①-②」、ZOOM講義、7月29-30日、20-21時

福井県立大野高等学校「学問発見講座」10月10日

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

教職部会の創造農学科連絡担当

(3)学内行事への参加

入学式・保護者懇談会
入試説明会（福井県立丹生高校）
オープンキャンパス
あわらキャンパス収穫祭
福井県高等学校理科教員 情報交換交流会
学生サークル顧問：オカルトサークル

(4)その他、自発的活動など